
小さな宇宙

ふによ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな宇宙

【Nコード】

N1215BA

【作者名】

ぷによ

【あらすじ】

無限に広がる大宇宙。しかしそれは小さな出来事に過ぎない。

無限に広がる大宇宙。

そこには、数え切れない星々が煌めき、生物が誕生し、小さな世界で世代を更新しながら悲哀を繰り返した。
しかしそんな時代も今は昔。

「ああ、そろそろ終わりだね」

フラスコの中身を眺めながらピータンは呟いた。

隣にいたラバトスがパラパラと実験要綱の紙を捲りながら、「そうだね」と相槌を打つ。

所々黒く穴の開いた青白く渦巻く気体が、火花のような輝きを発しながら徐々に一点に向かって収束していく。

その勢いは加速の度を深め、超強化ガラスで出来たフラスコを白く照らし出し始めた。

プラツツェル先生が手を叩いて生徒達の注目を引き寄せる。

「皆、そろそろ実験の最終段階です。物質という物の本質、つまり温度が上がった場合の粒子の動作をよく観察してください。

目をやられるといけないので防護眼鏡をして、フラスコを囲いで覆うように」

言われた通りに全員が手を動かした。

S 大学量子工学科。三年生の必修実験は佳境を迎えていた。
毎年数名が怪我をするこの実験はしかし、量子力学の基礎の基礎で、科目から外される事はない。

ピータンがあまりの眩しさに思わず手を翳して顔を覆った。

同じようにした生徒からたくさんの悲鳴が上がる。

「怖い！」「キャーっ！！」それほどの光が教室を真っ白に照らし

出していた。

やがて耳をつんざくような轟音と共に光は弾け、突然消えた全ては失せてしまう。

静寂の戻ったそこで、生徒達は恐々と顔を上げた。

プラッツェルはそんな彼らの様子をずっと眺め続けた。

毎年生徒達の行動は変わらない。しかしそうでなくてはいけないのだ。

これから君達に取り扱う物が如何に危険を伴う物なのか、身を以って感じて貰うのが今回の目的のだから……。

無限に広がる大宇宙。

それはビッククランチというイベントで終わりを告げた。

フラスコの中の無限の時間を知らず、悲喜こもごもの時間を知らず、生徒達はレポートを書き上げる為に鉛筆を走らせていた。

喉元過ぎれば何とやら。恐怖は今や彼らの会話のネタになっている。

しかし心に刻み込まれたそれは、これからの勉学の礎になる事だろう。

プラッツェルは今回のレポートの全てを満点にするつもりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1215ba/>

小さな宇宙

2012年1月2日23時52分発行